

# 井林

い

ばやし

## たつり

-通信 第五十七号-

### 自由民主

LIBERAL & DEMOCRATIC

発行所:自由民主党本部  
東京都千代田区永田町1-11-23  
電話:東京03(3581)6211(代)

自由民主党  
静岡県第二選挙区支部

〒426-0037  
藤枝市青木3-13-8  
TEL 054-639-5801  
FAX 054-639-5802



Mail office@t-ibayashi.com  
井林たつりの国会事務所  
〒100-8981  
東京都千代田区永田町2-2-1  
衆議院第一議員会館919号室  
TEL 03-3508-7127  
FAX 03-3508-3427

# 無電柱化

# 推進計画

電柱が増える現実



井林たつり



## 衆議院議員 井林たつり

生年月日 昭和51年7月18日

住所 藤枝市本町

本籍 榛原郡川根本町(お茶農家)

【経歴】京都大学工学部卒業、同大学院環境工学修了

平成14年より国土交通省勤務、平成22年6月退官

平成24年12月初当選(四期目)

平成28年8月環境・内閣府大臣政務官

令和3年11月自民党 財務金融部会長

静岡県サッカー協会中西部支部 会長

【家族】妻・長女・次女

【趣味】野球、水泳【好物】焼魚、白米、お茶



ポスター掲示を  
お願いします。

## 自民党での 活動報告

## ウクライナ問題で議論をリード ～財務金融部会長として関係合同会議を開催～

ウクライナへの軍事侵攻が行われています。力による現状変更は許されません。自民党では会議の乱立を防ぐために、外交・国防・経産・財金の四部会(省庁)合同会議で議論を進めています。私は、財務金融部会長として議論をリードします。特に、ウクライナ問題対応で法改正は財務金融部会のみ(外国為替・関税の制裁)で、経済制裁の中心になっています。国益を見据え、一日も早い平和実現に頑張ります!



自民党の会議で議論の焦点を担当責任者として挨拶



## 井林たつりのスマイルメッセージ

第1・第3・第5<水曜日>FM島田(76.5MHz)

放送; 8:10~再放送; 18:35~

ネットでも聞けます (<http://www.icbasimul.com/>)

## ご支援のお願い

志太・榛原だけでなく、静岡県そして日本の為に粉骨砕身働いていくために、物心両面で多くの方々にご支援頂いています。

ご賛同いただける方は、お一人月千円からのご協力をお願い申し上げます。下記にFAX頂くか、電話(054-639-5801)又はメール([office@t-ibayashi.com](mailto:office@t-ibayashi.com))でお伝えください。

**FAX 054-639-5802**

※ご加入口数(□に✓を入れるか、\_にご記入ください)  
1□ 3□ 5□ \_\_□ (1□千円/月)

お名前 \_\_\_\_\_  
※個人名でのご支援をお願いしています

住所 〒 \_\_\_\_\_

TEL/FAX \_\_\_\_\_ 生年月日 \_\_\_\_\_



鈴木財務大臣に  
地域の実情を伝える!

# 無電柱化推進計画

～電柱が増えている現実～

## 電柱が増え続けている現実が初めて明らかに！

道路上に電柱が倒れて、緊急自動車や災害復旧車両が通れない映像を、大規模な地震や台風の災害の報道で目にします。そのほか、景観や街づくりの為に無電柱化は推進されています。しかし、全国には依然として約3,600万本の電柱が存在し、毎年数万本単位で増え続けています。そこで、令和三年度に新設電柱の増加要因の調査・分析を初めて実施しました。

結果は右表の通りで、市街地再開発事業まではいかない、個別の家屋新築が多くを占めています。また、再エネ発電設備への接続も多い状況です。

今回は、特に増加が多い「個別の家屋新築等」について対策と取り組みを報告します。

要因	増減
供給申込	約4.2万本 (80%)
うち市街地開発事業等に係るもの	約0.2万本 (5%)
うち個別の家屋新築等に伴うもの(上記以外)	約3.9万本 (75%)
再エネ発電設備への電線の接続に係るもの	約1.0万本 (20%)
合計	約5.2万本 (100%)

※四捨五入の関係で各計数の和が一致しない

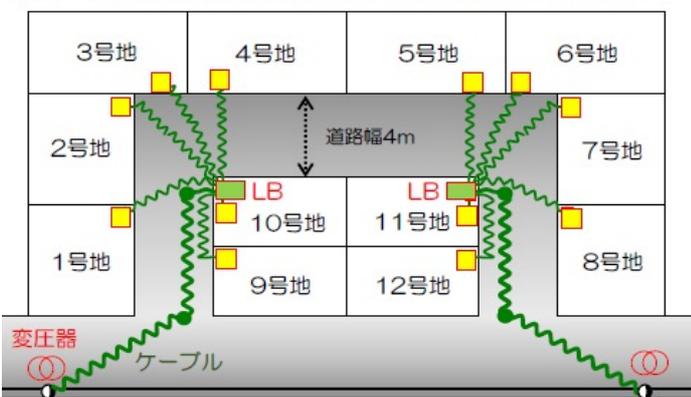
## 水道と同時に電線を地下に整備したらどうだろうか？

電柱が最も増える、一定規模の住宅建設における無電柱化の課題として、宅地造成時に住宅の詳細設計がないため引込線の場所が確定できないことが理由になっています。

でも、水道は整備されていますよね。だったら、水道と同様にあらかじめ引込点を決めておいて、水道と同時期に電線を整備したらどうだろうか？と考え、関係者の合意を頂きました。

令和四年度は東京電力管内で検討を行い、令和五年度から一気に全国で、先行事例の創出を行い、スピード感を持って普及拡大を目指してまいります。

### 【水道等と同時期に整備する施工方法の検討】

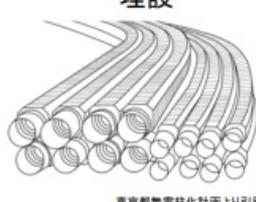


## コスト縮減で電気代上昇を抑えることも大切

■: 引込場所 LB: 低圧分岐装置

無電柱化のコストは最後は電気利用者の負担になります。電気代の上昇は家計の大きな負担になります。そのため、無電柱化のコスト縮減も重要な課題になります。まずは、各地域電力でのケーブルや機器の標準化と共同調達を実現しました。

今後は、さらなるコスト縮減の為に、右図のような技術を開発・普及させるだけでなく、各電力会社の利用実績（採用手法・箇所数・距離等）を公表することにしています。

管路の浅層埋設 (実用化済)	小型ボックス活用埋設 (実用化済)	角型多条電線管[FEP管] (実用化済)
現行より浅い位置に埋設  浅層埋設の事例	小型化したボックス内にケーブルを埋設  小型ボックスの事例	安価で弾性がある角型多条電線管を地下に埋設  FEP管のイメージ <small>東京都無電柱化計画より引用</small>

## きめ細やかな補助制度もつくっていきます

無電柱化の補助制度は、電線共同溝事業や、大規模な市街地再開発事業に伴う場合などでした。しかし、小規模な市街地再開発事業や、それ以下の小さな事業（令和三年度に拡充済み）。さらには、既存の生活道路の短い距離でも無電柱化する事業（無電柱化まちづくり推進事業）を令和四年度に創設する等、各地域の実態に合った、きめ細やかな財政支援を行うことで、無電柱化を推進してまいります。

### 【生活道路の無電柱化のイメージ】



※本資料の図表は国土交通省資料より抜粋